

5. 普及・広報活動

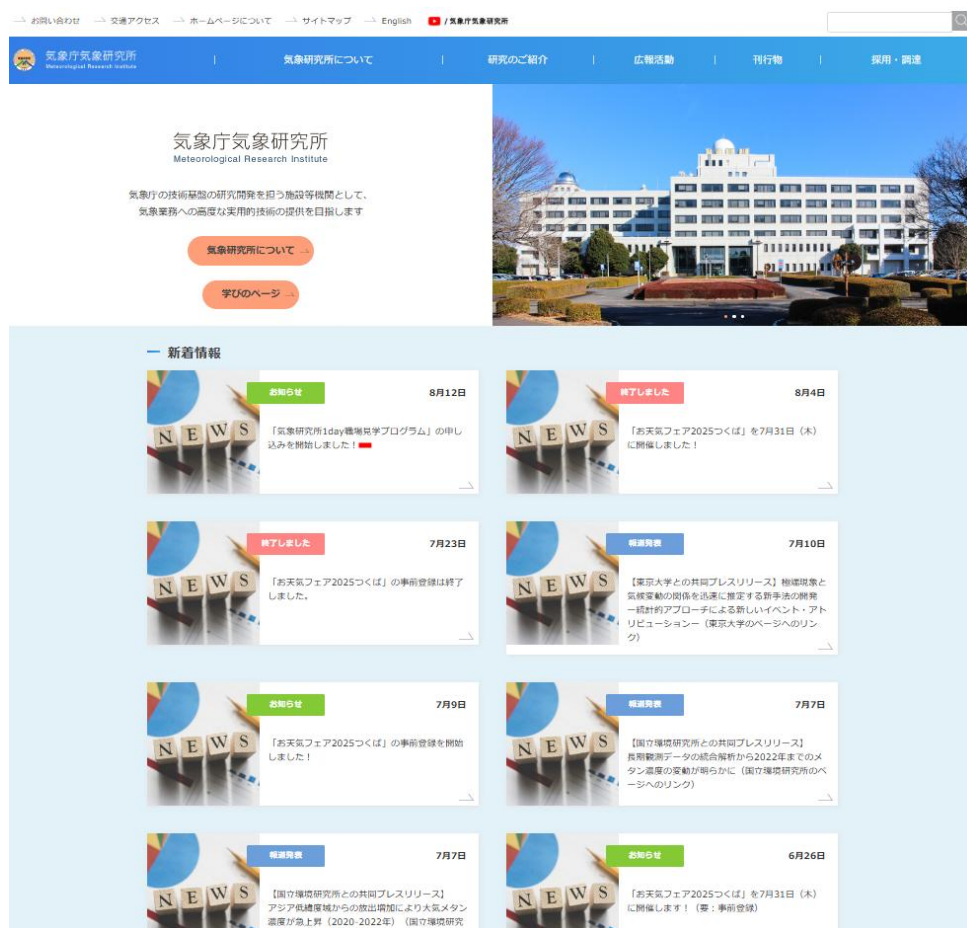
気象研究所では、研究の内容や業務について広く一般の方々の理解を促進するため、気象研究所ホームページやパンフレットなどの媒体を通じて情報を発信している。

また、施設の公開は気象研究所が独自に実施しているもののほか、他省庁の主催する行事への協力や筑波研究学園都市交流協議会、つくば市等の行事と連動し、効果的な普及・広報活動に努めている。

5.1. ホームページ

気象研究所のホームページは、気象研究所の研究活動や内容を内外に向けて積極的に発信することを目的として、平成7年12月から運用し、平成31年4月にリニューアルを行った。

気象研究所ホームページは、気象庁のホームページや関連研究機関からリンクが張られており、令和6年度のアクセス件数は月平均で約5万件であった。



ホームページアドレス : <https://www.mri-jma.go.jp>

5.2. 施設公開等

一般公開（科学技術週間）

気象研究所では、気象測器検定試験センター及び高層気象台、数値予報開発センターと共同して、科学技術に関する国民の関心と理解を深めるため、科学技術週間（科学技術に関し、広く一般国民の関心と理解を深め、わが国の科学技術振興を図るために設定されている週間。例年、4月18日の“発明の日”を含む週が科学技術週間として設定される。）の行事の一環として一般公開を行っている。令和6年度は、4月17日（水）に開催し、以下の所内見学ツアーを実施した。所内に設置している観測測器等を見学していただくとともに、研究で得られた最新の知見を研究官より紹介した。

見学ツアー実施内容

気象研究所概要紹介

観測測器等紹介

放射観測棟測器（担当 気象観測研究部 山崎室長）

ライダー（露場）（担当 気象観測研究部 酒井室長）

二重偏波ドップラーレーダー（担当 台風・災害気象研究部 鶴沼研究官）

マイクロ波放射計（担当 台風・災害気象研究部 荒木主任研究官）

お天気フェア

気象研究所では、気象測器検定試験センター及び高層気象台、数値予報開発センターと共同して、毎年夏休み期間中に「お天気フェア」を開催している。この「お天気フェア」では、研究施設の公開やビデオ上映により当所の紹介を行うとともに、研究部ごとに特徴を生かしたブースを設置し、実験や解説を行っている。

なお、このお天気フェアは、つくば市教育委員会が主催するクイズラリー「つくばちびっ子博士」の指定イベントとして登録されている。

令和6年度は、7月31日（水）に以下の内容で開催し、708名の来場者があった。

企画内容（タイトル）	主催官署・研究部
空気砲で遊ぼう・・・・・・・・・・・・・・・・	全球大気海洋研究部
回転実験施設・・・・・・・・・・・・・・・・	気象予報研究部
低温実験施設・・・・・・・・・・・・・・・・	気象予報研究部
映像でみる観測の世界とクイズ・・・・・・・・	気象観測研究部
記念日天気図・・・・・・・・・・・・・・・・	気象観測研究部
ぬり絵で理解する気象・・・・・・・・・・	気象観測研究部
台風で強風がふく仕組みを理解しよう・・	台風・災害気象研究部
雪講座「雲と仲良くなろう」・・・・・・・・	台風・災害気象研究部
温暖化すごろく・・・・・・・・・・	気候・環境研究部
津波の水路実験・・・・・・・・・・	地震津波研究部
古い海図をリサイクル・・・・・・・・・・	地震津波研究部
お麩を使った噴火実験！？・・・・・・・・	火山研究部
雨粒の形を見てみよう・・・・・・・・・・	応用気象研究部
アメダス・高層気象施設の見学ツアー・・	高層気象台
高層気象台の観測パネル展示・・・・・・・・	高層気象台
光を使って実験をしよう・・・・・・・・・・	高層気象台
気象測器歴史館一般公開・・・・・・・・・・	気象測器検定試験センター
パソコンで気象データを描いてみよう・・	数値予報開発センター

施設見学

定期的な一般公開（科学技術週間、お天気フェア）のほか、主として学校教育の一環として行われる校外授業などを対象に施設見学の対応を行っている。案内するコースは、主に研究所内の施設紹介を行う「施設見学コース」と、これに加えて見学希望者の選択した研究の内容を研究官自らが紹介する「研究紹介コース（下記 10 コースから 1 つを選択）」の 2 つを設定している。令和 6 年度は、21 件（うち「施設見学コース」が 7 件）の申し込みがあり、下記のとおり対応した。

研究紹介コース内容（タイトル）	担当研究官	実施日
地球温暖化によって将来の気候はどう変わるのか？	気象予報研究部 川合秀明	令和 6 年 5 月 28 日
	気候・環境研究部 保坂征宏	令和 6 年 8 月 21 日
	応用気象研究部 川瀬宏明	令和 6 年 9 月 9 日
		令和 6 年 11 月 28 日
		令和 6 年 11 月 29 日
		令和 6 年 12 月 10 日
		令和 7 年 2 月 21 日
		令和 7 年 3 月 3 日
積乱雲や豪雨の発生・発達を捉えるための新しい観測データの紹介	気象観測研究部 瀬古 弘	令和 6 年 10 月 1 日
映像で親しむ雷の世界	気象観測研究部 吉田 智	
線状降水帯をどのように予測するのか？	気象観測研究部 川畑拓矢	令和 6 年 11 月 8 日
		令和 6 年 12 月 26 日
集中豪雨と線状降水帯	台風・災害気象研究部 加藤輝之	令和 7 年 3 月 13 日
	台風・災害気象研究部 廣川康隆	
次世代の緊急地震速報：より速く、より正確な速報を目指して	地震津波研究部 小木曾 仁	
大気中の温室効果ガスを測る・診る （7 月から開催）	気候・環境研究部 永井 康之	令和 6 年 11 月 6 日
	気候・環境研究部 藤田 遼	
気象研究所における地震と津波の研究	地震津波研究部 小木曾 仁	令和 6 年 12 月 13 日
	地震津波研究部 対馬弘晃	
台風情報の精度向上を目指して （11 月から 3 月の開催）	台風・災害気象研究部 嶋田宇大	
グリーンランド氷床における大気・雪氷研究 （1 月から開催）	気象予報研究部 庭野 匡思	

5.3. 他機関主催行事への参加

つくば市などが主催する、科学技術の普及に関する行事に参加・協力し、気象研究所の研究活動の紹介や、気象・気候・地震火山に関する知識の普及活動を行っている。令和6年度は、下記行事に参画した。

開催日	イベント名、担当研究官等
令和6年12月4日	水夜サイエンスカフェ 第1回 タイトル：基礎科学から実学へ～加速器で見る/防災情報の高度化～ 講演先：つくばセンタービル 1F co-en 講師：高野 洋雄（応用気象研究部）
令和7年2月19日	水夜サイエンスカフェ 第11回 タイトル：1℃の変化が招く大激変！～変わる気象と越境する害虫～ 講演先：つくばセンタービル 1F co-en 講師：川瀬 宏明（応用気象研究部）
令和7年2月20日～	つくばスタイル科 STEAM コンパス
3月14日	テーマ：子供たちが自ら問いや課題をみつけ、情報を収集・整理しながら、他者と議論・協力して、自分独自の最適な答えを見つけていくことを目的とし、実施しています。世界の謎への探究、未踏の開発に挑む「研究者」からアドバイスをもらえる場を作ることで、自分が考えた研究プランに対して、ポジティブなフィードバックをもらうことで、子供達の視点・視座を広げ、自信を持って継続的な学びの活動に繋げていく状態を目指す。 出前講座先：吾妻中学校 研究員：川瀬 宏明（応用気象研究部）、吉田 智（気象観測研究部）

5. 4. 報道発表

- 令和6年4月18日 同位体モデルと精密観測によりメタンの「足あと」を辿ることが可能に
https://www.jamstec.go.jp/j/about/press_release/20240418/
(海洋研究開発機構のページへのリンク)
- 令和6年6月12日 梅雨期九州の集中豪雨、明け方から朝に頻発、顕著な増加傾向
https://www.mri-jma.go.jp/Topics/R06/060612/060612_press.html
- 令和6年6月13日 線状降水帯予測精度向上に向けた技術開発・研究の取組について
https://www.jma.go.jp/jma/press/2406/13b/SLMCS_20240613.html
(気象庁のページへのリンク)
- 令和6年10月1日 北極域での気温上昇によって氷晶形成にかかわるエアロゾルは増加する
<https://www.nipr.ac.jp/info2024/20241001.html>
(国立極地研究所のページへのリンク)
- 令和6年11月7日 太平洋における秋季の酸素放出を大気観測結果の解析により推定
<https://www.nies.go.jp/whatsnew/2024/20241107/20241107.html>
(国立環境研究所のページへのリンク)
- 令和6年11月20日 日本域を対象として過去の詳細な気象・気候を再現 ～温暖化シグナル検出への活用に期待～
https://www.mri-jma.go.jp/Topics/R06/061120/061120_press.html
- 令和6年12月9日 令和6年9月下旬の石川県能登の大雨に地球温暖化が寄与 イベント・アトリビューションによる結果ー
https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_01459.html
(文部科学省のページへのリンク)
- 令和6年12月25日 線状降水帯予測精度向上に向けた技術開発・研究の取組について
https://www.jma.go.jp/jma/press/2412/25c/SLMCS_20241225.html
(気象庁へのページのリンク)
- 令和7年3月18日 令和7年2月上旬の大雪に地球温暖化が影響 イベント・アトリビューションによる速報ー
https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_01491.html
(文部科学省のページへのリンク)
- 令和7年3月25日 気象研究所と国立環境研究所による気候変動に関する連携の強化ー研究連携・協力をより一層推進するため基本協定を締結ー
https://www.mri-jma.go.jp/Topics/R07/070325/070325_press_release.html

5.5. 国際的な技術協力

気象研究所では、気象庁として加盟する世界気象機関（WMO）の枠組みの中で、WMO が行う様々な研修に講師として研究者を派遣するほか、開発途上国などからの研修員を積極的に受け入れている。また、独立行政法人 国際協力機構（JICA）が行う政府開発援助のもとで行う研修においても、気象に関する幅広い技術の指導や支援を行っており、国際的な技術協力を行っている。

そのうち、気象研究所で令和6年度に受け入れた各種研修については、8.3「海外研究機関等からの来訪者等」に詳細を記載している。

また、地震火山分野にあつては、平成7年以来、建築研究所が行う「国際地震工学研修」グローバル地震観測コースにおいて、地震波解析による核実験識別法の講義等を行うことを通じて、包括的核実験禁止条約の枠組み推進に貢献するとともに、平成23年度からは同研修の個人研修にかかる研修生の受け入れも行っている。